

ここから始まる 大津の魅力発信

人がつながる

大津町の歴史を振り返ると、宿場町の歴史があります。宿場町として作られた大津に自然と人が集まり、経済の中心になっていきました。そして時代が進むにつれて農工商併進のまちづくりを進めてきました。農業、工業、商業がバランス良く発展した大津町は、平成17年から4年連続で普通交付税の不交付団体になりました。

ところが、世界的な不況により、景気が悪化したのは皆さんもご存じだと思います。これから町はどうやって生き残っていくのか？私たちは大津町のことをもっとよく考えていかなければなりません。そのためには人と人をつなぐことが大切だと思います。

交通でつなぐ

肥後大津駅と阿蘇くまもと空港をつなぐシャトルバスは、現在試験運行が行われています。そして3月12日には九州新幹線が全線開業します。これはチャンスです。新幹線の開業と空港からのシャトルバスで多くの人が大津に訪れます。それは、経済効果はもちろ

ん、元気な大津町になることが期待できるのです。そのために大津町の将来を見据えたまちづくりの一步として、肥後大津駅が交通の要所となるように整備を行いたいと思っています。

駅を町の玄関に

20、30年前から町の区画整理を行ってきた、駅周辺の整備は行わなければならないと思っていました。駅自体を移動する、橋上駅を造る、などいろんな案がありました。しかしそれはとてもお金と時間が掛かります。そのため、住民アンケートで最も要望の多かった駅南口の問題を解決するために「都市再生整備計画事業」を活用して、バスのロータリーと駅の南口機能を持つ観光交流施設を整備することにしました。

バスロータリーは、バスと鉄道をつなぐ役割として、観光交流施設では、大津町の観光や物産情報を発信したいと思っています。

目指すべき大津町の姿

新幹線や空港シャトルバスがあっても、大津町が通過するだけの町になってはいけません。その

町長が語る、駅周辺整備への思い—

まちづくりは行政だけではできない。
整備をきっかけに町民一体となった行動を

ためには、私たち町民全員の努力も必要だと思っています。第一歩が「あいさつ」です。町の教育でもあいさつの大切さを教えています。気楽にあいさつができる環境を作っていきたいですね。あいさつは「おもてなしの心」であり、情報です。対話のきっかけでもあります。あいさつがあれば、人と人の心がつながり、情報を共有することで想像できないものが生まれると思っています。

今は新しい住民も増えていますが、昔からの住民が気付かなかつた「宝」を掘り起こし、磨くこと



大津町長
家入 勲

ができれば、もっと誇れる町になることができると思っています。

誰でもチャンス

駅周辺を整備し、多くの人が町に関わることで経済が活性化します。関係ないと思われる人もいろいろなチャンスが訪れます。そのチャンスの中で自分の力を生かしていくことが大切です。皆さんもこれをきっかけに自分に何ができるのかを考えてほしいですね。それが大津町をより光り輝かせることにつながりますから。

どんなに車社会が進んだとしても、駅は必要だ。公共交通機関として鉄道は、学生ときは通学手段にもなるし、大人になれば通勤はもちろんお酒を飲んだ車に乗ることができないときにも利用することができる。

それだけではない。出張や旅行などで町外の人が最初に大津を訪れる場所は駅の可能性が高い。駅は、町の玄関であり、町の顔だ。そのためにビジターセンター（仮）は造られる。観光や物産情報などの大津町の魅力を発信する拠点として同センターへの期待は大きい。

「ウチには何も無いけん」という言葉を聞くことがある。大津町は観光資源が無い、もしくは少ないから観光ができないという意味で言われる言葉だ。もちろん何も無いわけではない。大津町として誇れるものは少なくない。要はそこに気付くかどうかなのだ。

ここで見ることができない、ここでき体験することができないものが観光資源なのだろう。それは場所やものでなくとも良い。例えば、大津が誇る「おもてなしの心」は立派な観光資源になるはずだ。

今後、バスロータリーやセンタ―が完成して、ハード面が充実すれば次はソフト面だ。ソフトとは私たちの心の問題。大津町を訪れた人が「来て良かった。いい町だった」と思ってもらえたら、私たちもうれしいはずだ。『共感』することが心のつながりを加速させていくだろう。

私たちも肥後大津駅を活用していこう。現在、空港へのシャトルバスも試験運行が行われているし、3月には九州新幹線も全線開業される。肥後大津駅が交通拠点として機能することは、大津町だけでなく熊本県全体にとっても誇れることだ。

駅の南側を整備することは、南側だけにメリットがあるわけではない。駅周辺が活性化すれば北側にとってもメリットになる。北も南も大津町なのだから。「何も無い」ではなく「こんなにある」という気持ちで町の魅力を発信しよう。

私たち町民があいさつを気軽に交わせるような、そんな心かよいあう町ならば、駅から見える大津町は、北も南も輝いているに違いない。

特集 北へ、南へ。 終わり